

はじめに

五十嵐茜

第3章では、「街と人～行政と民間～」をテーマに、観光・商店街・キャラクター・企業・交通などのさまざまな分野に着目し、街とそこで生活する人々との関わりに重点を置き調査をしている。調査・研究にあたっては文献からの引用などではなく実際に現地に足を運び、実地見聞をし資料を収集した。

章の概要としては、第1節では、東北六魂祭をきっかけに、大きく分けて「地域づくり」と「SNSによる広告・PR活動」の2つの視点から観光交流と地域活性化のためのまちづくりについて考察している。

第2節では、都市部における2つの商店街の独特の取り組みの事例から、各地域の商店街同士の繋がり、また最終的には商店街から成る“街”と住む“人”とのつながりも含めて考察を進めている。

第3節では、福島県須賀川市のウルトラマンを生かしての地域活性化について調査し、またその取り組みをする民間団体と行政の動きを比較することで、キャラクターを生かしての地域活性化の可能性について考察している。

第4節では、東京から少し距離のある所に位置している宇都宮の最大の魅力を距離感が作り出す時差と市民の力に焦点を当て、そこに注目した事業を行う企業とその影響、また他の例を挙げ、市民が主体となる町の活性化について考察している。

第5節では、さいたま市と宇都宮市には、交通渋滞という共通の課題があるが、性格の異なる双方の市では、バス会社の行う対策もことなっているのではないかと考え、双方の市民の行動に注目しながら、バス交通のあり方、バス会社の行うべき対策について考察している。

都市部では人口集中における問題があり、地方では中心市街地の活性化ということが共通して大きな課題となっている。この現象は日本中どこでも起きている課題である。街が「まち」としてのかたちを残していかななくては、「人」はよりどこをどこへ求めればよいのだろうか。街は、人々の暮らしを支えるだけではなく、文化的風土を生み育てるところである。それゆえ人は自分の生まれ育った街を故郷としていつまでも大切に想うのである。ショッピングモールには便利さ快適さはあるが、故郷となることはない。

この章を通して、どこの街でも共通して抱える課題があり、その解決のために行政や民間レベルでのさまざまな方策が試みられていることが見えてくるだろう。